



先端錯体工学研究会 2017年度 年会開催

2017年8月21日大阪市立大学学術情報総合センターにて、先端錯体工学研究会2017年度年会が大阪市立大学人工光合成研究センター及び触媒学会生体関連触媒研究会との共催事業として開催されました。

特別講演では本研究会フェローの矢野重信先生（ミネラルバイオラボ）による「次世代貴金属錯体抗がん剤の開発 ― 転移・浸潤を抑え込むがん細胞に発現するCDCP1蛋白質を標的とする貴金属錯体」と題し、貴金属錯体の次世代抗がん剤への展開について最新の研究成果を紹介されました。



矢野重信先生（特別講演）



小倉俊一郎先生と佐藤哲也先生（招待講演）

続いて招待講演では東京工業大学の小倉俊一郎先

生による「アミノレブリン酸を用いたがんの光線力学療法における鉄イオンの役割」と題し、光線力学療法確立に向けた研究成果、大阪市立大学の佐藤哲也先生による「遷移金属錯体触媒を用いる炭素-水素結合の直接誘導体化法の開発」と題し、遷移金属錯体を用いた炭素-水素結合形成のための触媒機能発現についての革新的な研究成果を紹介されました。人工光合成に関する研究を進めている新進気鋭の若手研究者2名による招待講演も企画しました。最初に名古屋大学の岡村将也先生による「人工光合成の実現を目指した高活性な酸素発生触媒の開発」と題し、酸素発生触媒の分子設計・合成・特性等を革新的な研究成果を紹介されました。最後に長崎大学の作田絵里先生による「アリールホウ素を有する遷移金属錯体を利用した二酸化炭素光還元反応」と題し、ホウ素を利用した二酸化炭素還元を試みる斬新な研究



成果を紹介されました。

岡村将也先生と作田絵里先生（招待講演）

学生によるポスター発表では、ポスター賞2件が授与されました。大阪市立大学玉置真子さん（N-ヘテロ環カルベン部位を有する糖修飾二座及び三座配位子を持つニッケル錯体の触媒能）と、関西学院大学行平奈央さん（紅色光合成細菌のLH1複合体とカロテノイドを用いた再構成）が受賞しました。閉会式にて受賞者がアナウンスされ、受賞に対する喜びの挨拶をしてもらい、盛会の後に年会は閉会しました。

人工光合成研究拠点では、当研究センターに関するお知らせや講演会開催の案内など、最新情報をホームページやFacebookに掲載しています。是非チェックしてください。

人工光合成研究拠点 ニュースレター

第2巻・第7号平成29年10月23日発行

発行責任者：天尾 豊（大阪市立大学人工光合成研究センター所長）